平成31年２月１日 第153号

議会だより

なかさつない

「よいしょ～！」（きらきら保育園・上札内保育園合同「防火もちつき会」）

12月定例会

条例の改正、指定管理者の指定、補正予算

一般質問　４人の議員が登壇

模擬議会、委員会活動ほか

編集後記

発行／北海道河西郡中札内村議会　　編集／中札内村議会広報特別委員会
〒089-1392 北海道河西郡中札内村大通南２丁目３番地　☎0155-67-2497　FAX68-3911
URL:http://www.vill.nakasatsunai.hokkaido.jp/　　E-mail:g-gikai@vill.nakasatsunai.hokkaido.jp

平成30年12月村議会定例会

中札内村議会定例会は12月７日に招集され、会期を14日までの８日間とし、意見書１件を採択、報告１件、議案11件を原案可決しました。

14日は４人の議員が一般質問を行い閉会しました。

条例の改正

◆村有住宅使用条例の一部改正

村有住宅に空がある場合、教職員と村職員以外にも貸出し、有効に活用できるよう条例の一部を改正するものです。

問 急に村に来たが入居できる空住宅がないという場合にも貸し出せるのか。

答 まずは村営住宅への入居が第一と考えている。想定する例として、ＪＡ等で急に職員が入り、通常では入居できない共同生活などの場合が該当する。その他に短期的入居も想定できる。

◆十勝圏複合事務組合規約の変更

ごみ処理施設及び最終処分場の設置、維持管理・運営に関する事務に、平成31年４月１日から清水町、本別町、足寄町及び陸別町を加えるため規約を変更するものです。

問 ４町が新たに加わることで、ごみ処理能力に支障はないのか。また、本村の分担金は変わるのか。

答 ４町からの要請を受け検討を行い、能力に支障なしとの結果になっている。

本村の分担金は、来年度１１０万円減額となる見込み。

◆中札内村議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正
◆中札内村長等の給与等に関する条例の一部改正
◆職員の給与に関する条例の一部改正

（３件一括提案）

国家公務員の給料及び勤勉手当等の改定に準じて条例の一部を改正するものです。

問 宿日直手当も改定されるが、実際に支給する業務はあるのか。

答 最近では、北海道胆振東部地震の停電対応で支援所を開設し、職員が宿泊したことにより宿直手当を支給した。

指定管理者の指定

◆中札内交流の杜に係る指定管理者の指定

○指定管理者　株式会社ユービック

○指定期間　平成31年４月１日～平成36年３月31日

中札内交流の杜

補正予算

補正内容と質疑の主なものを掲載します。

花咲くコンサート

花咲くコンサート補助金　△２４３万５千円

花咲くコンサートのチケット売上げが大幅に伸びたため、花咲くコンサート補助金を減額するもの。

問 どの程度の総事業費になっているのか。また、不足する事業費を企業の寄付で賄っているのではないのか。

答 総事業費は、３７００万円程となっている。チケット売上げの増、出演料などの経費削減があったが、企業の寄付は変わらず、精算により補助金が戻るルールとなっている。

にぎわいをみせた第３回花咲くコンサート

ふるさと納税増加

ふるさと納税ポータルサイト掲載委託　390万円
ふるさと納税支援サービス使用料　64万4千円
郵便料　117万6千円

ふるさと納税寄付者の増により、返礼品発送料等が不足することから、関連する予算を増額するもの。

問 ふるさと納税の増により関係する経費が増額補正されるが、返礼品の予算は増額補正しないのか。

答 当初800万円の返礼品予算を計上しており、現段階で2000万円ほどの寄付額となっているが、返礼品の額は3割としていることから、予算はまだ残っている。

ふるさと納税寄付者に贈る返礼品の一部

灯油価格高騰により上限支給

福祉灯油　390万円

灯油価格の高騰により、福祉灯油支給額が増加することから、法外援助費を増額するもの。

問 灯油価格の値上がりにより、全ての対象世帯に2万円支給するとのことだが、算定の根拠はどのようになっているのか。

答 基準日である11月1日の灯油価格が、3年間の平均灯油価格より20％を超えている場合は2万円支給というルールになっている。

とかち広域消防事務組合費

負担金　48万9千円

問 どのような理由により負担金増となるのか。

答 消防車両照明の故障によりLEDランプに交換したが、費用の支払いは広域消防からになるが、所有する市町村が負担するルールであり、負担金として支払う。

道路改修費

委託料　△2509万9千円
工事請負費　△490万円

問 大幅な執行残となったが、競争入札によるものでなく、予算当初と比較し工事内容が縮小されたものか。

答 事業量を減らしたものではなく、入札により減額となった。企業努力による結果と理解している。

中島新橋橋梁改修工事

村有林管理費

土地購入　30万4千円

問 どこの場所をどのような理由により購入するのか。

答 西札内の私有林だが、一昨年の台風による大雨で、村有林の土砂がこの私有林に流れ込み、土砂除去の話合いをしていたが、北側一体が村有林で、伐採期にきている林でもあり、土砂を利用し作業道として整備ができる場所にあることから、購入することとした。

札内川園地管理費

防護フェンス設置工事
△17万4千円

問 札内川側のフェンスは設置されたが、函の沢側にはフェンスは設置しないのか。また、函の沢護岸洗掘対策は早急に行うべきと考えるが。

答 バンガローのある場所の札内川側と滝見橋のあった札内川側への観光客の立入り防止策としてフェンスを設置しており、函の沢側は設置の考えがなかった。函の沢護岸改修は、色々ある工法の中から検討しており、予算措置までには工法を決定し、1年後の渇水期に工事が行えるよう進めたい。

札内川園地防護フェンス

住居地と登録住所不一致是正

一般質問

北嶋議員　その後の進捗状況は

森田村長　極めて厳しい状況

北嶋　信昭　議員

北嶋信昭議員

この質問は6月定例会の村としての答弁に対しての質問です。

本村が所有するその当時の文献や関係自治体への調査、さらに近隣農家等への聞取りなど、出来るだけの情報収集をした上で、村内の関係機関、団体とも情報を共有しながら、指摘された問題に対してどのような解決策があるのかを研究していくとの答弁がありました。

村として、その後、どの様に進めているのか伺います。

森田村長

6月定例会閉会後、当村と更別村の境界がどの様な背景で決まったのか、境界に誤りがなかったのかを本村の図書館、北海道図書館、帯広市立図書館及び帯広百年記念館で調査を行いましたが、当時の出版物等しかない状況であり、いずれにおいても分村境界線決定の経過に係る有力な資料はありませんでした。

両村境界が決定している中で、これを新たに変更するためには、両村間の協議や議会議決、北海道への申請及び道議会での境界変更議案決議などハードルが高く、極めて厳しいものであると判断しています。

2世帯の農家からの要望等につきましては、重要課題として、これからも安心して暮らせるよう意見を交わしながら状況把握に努め、諸問題の解決に向けて関係機関等と連絡を取りながら協議を執り進めていきたいと考えています。

分村の経過に関する有力な資料は見つかっていない

医療体制構築

一般質問

黒田議員　一体化した医療体制を

森田村長　後任医師確保に全力

黒田　和弘　議員

黒田和弘議員

村診療所の後任医師確保は、どのような状況なのか伺いますが、困難な状況なのであれば、新たな取組みを考えるべきです。

先般、道家庭医療学センターと提携している更別村国保診療所山田所長が両村の医療の未来をテーマに講演され、何でも相談にのってくれる総合的な医療が必要であり、2村が一体となった医療体制の構築ができないかと提言がありました。

中札内村民も、外来・訪問・時間外・休日診療や乳幼児健診等、更別村国保診療所を利用しており、一つの医療圏として医療体制を構築する必要があると考えますが、村長の考えを伺います。

森田村長

努力していますが、後任医師の確保には至っていません。

両村では、同一事業者による訪問介護や訪問治療、介護予防事業などが行われています。

人口減少を伴う超長寿社会を迎え、住民が安心して暮らせるよう広域的視点がますます大切になってくるものと考えます。

引続き情報収集に努めながら、様々な可能性を追求し、診療所の後任医師の確保に全力を尽くします。

更別村国保診療所山田所長による講演

一般質問

配偶者対策

宮部議員　取組み強化策は

森田村長　必要な取組み模索

宮部　修一　議員

宮部修一議員

村の配偶者問題は人口減少、少子化問題、ひいては事業者数の減少につながっていくことになり、深刻な問題と考えます。

そこで、３点ほど質問します。

①村では担い手対策の一環で、婚活パーティーを実施していますが、どのような成果がでてきているのか。

②村内で25歳～39歳の未婚者数は何割程になるのか。（男女別に）

③今後の配偶者対策の取組みは婚活パーティーだけなのか、新たな取組みを模索していく考えはないのか伺います。

森田村長

①の農業担い手育成センターの婚活パーティーの取組み状況と成果についてですが、平成26年度からこの取組みを実施していますが、カップルまでは成立しているものの、結婚まで結びついていない状況です。

②の村内における25歳～39歳の未婚者についてですが、未婚率は男性が52・3％、女性が36・1％、全体では44・3％となっています。

③の今後の配偶者対策の取組みについてですが、引続き担い手育成センターの婚活パーティーを中心に出会いの場をつくる取組みを行っていきますが、フォロー可能な体制づくりを研究していくとともに、今後の配偶者対策に必要な取組みを模索していきます。

配偶者対策の取組強化を

一般質問

交通安全推進

男澤議員　安全確保に信号機移設を

森田村長　移設による事故を懸念

男澤　秋子　議員

男澤秋子議員

村信号機は、指針に基づき、公安委員会が設置します。

村には、交通安全を確保するための善意により、学童擁護活動を行っている所が数ヶ所あります。そこで、その一箇所の東３条と道道38号線の交差点に国道２３６号線のＪＡ枝豆工場近くに設置されている信号機の移設を求めます。

又、村として信号機の設置が必要と思われる箇所について伺います。

森田村長

信号機の撤去・移設は、周辺の住民同意が必要です。

質問にある場所での信号設置の帯広警察署見解は、東３条と道道38号線のＴ字路交差点に向かって南進する車両には、当該タイプの信号機は確認しづらく、信号機を見落としがちになり、東３条からの右折時などに人身事故が発生することが懸念されます。さらに、道道38号線を走行する車両には、信号機に注意が向き過ぎる事で、東１条道路と東４条道路の横断歩道を渡る住民の気付きが遅れる可能性も指摘されています。

今後も、交通安全施策を進めると共に必要箇所への設置は関係機関に要請していきます。

信号機の必要箇所については、道道38号線と東４線の交差点、国道２３６号線と上札内に向かう道道55号の交差点と考えますが、規定により設置できない箇所との回答を受けています。

善意の学童擁護活動（緑のおばさん）

次の定例会は３月です

主な内容は、一般質問と議案の審査で、新年度予算案についても審議されます。

私たちの住むまちの議会をあなたも傍聴してみませんか。詳しい日程が決まりましたら情報無線でお知らせします。

～お知らせ～

昨年９月より、議会中継はＹｏｕＴｕｂｅでの配信に変えています。村のホームページ内のボタン 議会中継 をクリックしてください。『議会中継』のページからＹｏｕＴｕｂｅ中札内村議会公式チャンネルにアクセスできます。

意見書

◆ＪＲ根室線の早期災害復旧と路線維持を求める意見書

ＪＲ北海道は、「当社単独では維持困難な線区」として13線区を発表し、うち根室線（新得－富良野間）をはじめとする３線区を「バス等への転換について相談を開始する線区」とした。

根室線の沿線自治体で構成する根室本線対策協議会において、線区の経費節減策、利用促進策、住民意識の醸成策について協議してきている。しかし、同線区は平成28年の台風10号被害の復旧工事がなされておらず、こうした状態は、路線廃止に向けた既成事実化であり、断じて容認できるものではない。

根室線は、安定した農産物の輸送体系を形成する広域物流ルートとして、さらには広域観光ルートとして、必要不可欠な路線であり、路線廃止は北海道全体にも影響を及ぼすものと考える。

しかしながら、ＪＲ北海道は、８線区について国の支援を求めた一方で、根室線（新得－富良野間）については、国に支援を求めず、維持に向け努力をする姿勢が感じられない状況である。

国においては、不通区間の早期災害復旧、全線維持に向けた適切な指導とＪＲ北海道の経営再建に向けた抜本的な経営支援、老朽化した鉄道施設の保全・更新への支援について、実効ある取組みをされるよう強く要望する。

提出者　中井康雄　　賛成者　男澤秋子

－意見書は採択となり、関係大臣並びに関係機関に提出しました－

中学校生徒による模擬議会の開催

12月11日に、中学校３年生による模擬議会が議場で行なわれ、27名の生徒が五つの模擬政党を立上げ、「メインストリートの活性化」、「役場跡地の活用」、「河川敷の公衆トイレ」、「中央公園の利用者増加」、「ゴミ捨て場のカラス対策」についての政策提案や改善提案がされ、役場課長からその対応について答弁がされました。

終始活発な意見が出され、事前勉強会などを経ることで議会の仕組みを知り、まちづくりの意識を持つきっかけとなったのではないかと思います。

自分達の提案・質問に対する村の答えを真剣に聞く生徒たち

広尾町議会議員等研修会

11月29日に開催された広尾町議会議員等研修会に本村の議員も参加しました。研修会では、北海道町村議会議長会事務局長の村川寛海氏が「議会の役割と議会改革について」をテーマに、地方議会での一般質問や質疑・討論の在り方、議会モニターの役割、他市町村での議会改革の状況などについて講演されました。講演会後の質疑応答の場では、国が示した地方議会の在り方に関する報告書をどう評価するかなどの質問がされていました。

地方議会の役割と議会改革講演

総務厚生常任委員会
産業文教常任委員会
村内合同所管事務調査

昨年10月17日に、札内川上流地域の状況と今年度実施した工事現場などの村内施設を調査しました。

★交流の杜サッカー場天然芝の状況

サッカー場は、鮮やかなグリーンが一面に広がっており、適正管理の成果を感じました。

今後も、行政と指定管理者の連携・協力により、大会や合宿誘致に取組まれることを期待します。

★中札内団地ストック改善工事

改善内容は、内外装のリニューアルのほか、断熱性能向上、浴室のユニットバス化、給湯ボイラーの設置など、生活環境向上が図られていました。

しかし、庭や樹木等の周辺環境の改善はされておらず、日本で最も美しい村連合加盟村であることを意識し、周辺環境まで視野を広げ事業を実施することを求めます。

★多目的運動施設改修工事

室内に入った印象は、天井が低く、ゲートボール以外のスポーツには使用しにくいとの印象でした。

各種団体等と連携を図られ、多用途のニーズに応えられる管理・運営に努めるとともに、ゲートボール競技人口増に取組まれるよう求めます。

★中央公園の現状

南側森林が大きく成長し、暗い雰囲気になっており、除間伐や下草刈りを行う必要を感じました。

今年は、盆踊り会場として中央公園が利用され、盛り上がりを見せていました。今後も継続されることを願います。

公園の利活用は、住民で組織する検討委員会で調査・検討がされており、有意義な議論になることを期待します。

★ごみステーション改良状況

カラスによるゴミ散乱場所を議会で指摘し、その改良状況を確認しましたが、ゴミステーションはすでに側面と底面にネットが張られており、最小限の経費で試験的改善に努力されていると感じました。

しかし、樹脂製のネットは早く消耗するもので、蓋付きのタイプに取り変えることも必要と感じました。

★戸蔦大橋復旧工事

予定より早い9月3日から通行が再開し、戸蔦別川西地域との交流も戻り、買い物客などの経済的効果にも寄与しています。

しかし、河床の洗掘は続いており、砂防事業により改善策が施されるよう国との協議が進められることを期待します。

★堆肥化処理施設修繕

堆肥化処理施設は、供用開始から11年しか経過していませんが、この間、多くの修繕費を支出しており、今後も更に修繕費を要する状況にあります。

堆肥生産量を上げる研究をされ、収益が修繕の財源となる運営が不可欠と感じました。

堆肥化処理施設の状況視察

★大規模草地育成牧場完成牛舎

この秋から新指定管理者による運営に移行されることから、スムーズな引継ぎと早期に円滑運営となるよう努力を願います。また、牧場自体で経営が成り立つよう、適正な預託料の見直しや経費抑制の努力を期待します。

★札内川園地防護柵設置工事、函の沢護岸状況

仮設防護柵を恒久的防護柵にする工事が行われていましたが、函の沢側の落差部分には防護柵が設置されておらず、対策の必要性を感じました。

函の沢護岸は、下部の洗掘が進み、石籠が下がった状態になっており、早期に抜本的対策を講じるよう求めます。

★道々静内中札内線視察（札内川上流地域）

一昨年の台風10号の影響による土砂崩れで、山肌は岩盤が表れ、昨年の冬は想定外の大規模雪崩が発生していました。

札内川上流地域の環境は変わりつつあり、道路管理に要する負担は大きく増加していると感じました。

水道水、発電用水、農業用水を供給する札内川上流地域の水質保全管理のため不可欠な道路であり、今後も適度・適正な管理がされていくことを求めます。

総務厚生

常任委員会視察調査

昨年10月25日に、「十勝圏複合事務組合」と「とかち広域消防事務組合」の事業の状況について視察調査しました。

◆くりりんセンター
◆リサイクルプラザ

私たちが排出する生活ごみが、どのように処理されているのか、また、施設更新の検討状況について調査を行いました。

くりりんセンターは、可燃ごみは3基ある焼却炉で処理され、焼却灰は、池田町にある最終処分場で埋立て処理されています。また、大型ごみは、燃やせるものは小さく破砕した後に焼却し、資源化が出来るものはリサイクルし、最後に残ったものを埋立て処理しています。

ごみ焼却熱を利用した発電は、８６００ワット（住宅２万戸で消費する電力相当）で、余剰電力は売電しています。その他、発生熱は場内の暖房、ロードヒーティング等にも利用されています。

中間処理施設の更新計画は、十勝全域での広域化も想定し、管内19市町村による検討会議が設置され事業スケジュール案を定めており、供用開始は２０２７年度の予定です。今後の循環型社会の推進、自然環境保護が最大限発揮できる施設となることを期待します。

リサイクルプラザは、資源ごみを売却するための処理をしていますが、分別のルールが守られず、ごみの除去や分別に手間がかかる状況がみられました。排出時のルールが守られるよう、ごみの出し方の周知を行うとともに、ごみ減量化啓発も必要です。

ごみ分別作業現場を見学

◆とかち広域消防局

広域消防事務組合は、旧消防事務組合6消防本部を統合し今年度で3年目を迎え、住民の生命、財産、安心、安全を守る重要な役割を担っており、広域化による効果と課題について調査しました。また、市町村ごとに受けていた１１９番通報が、消防指令センターに集約されており、そのシステムを視察しました。

事務組合の管轄人口は34万2千人程で、管轄面積は１万８３１㎢あり全国一の広さです。

広域化による効果は、消防・救急車の市町村の枠を超えた直近消防署からの出動で現場到着時間短縮が図られたこと、初動時の出動部隊数が増強され、また、被害が拡大・活動が長期化した場合でも、署所間の応援補完により対応力の強化が図られています。

組合運営では、事務等が一元化され、防火管理講習や危険物施設の許認可などを消防局に集約したことにより、事務の軽減が図られています。

広域化後の課題は組織運営の効率化であり、市町村署所ごとの自賄い方式は、市町村の意向や地域事情が反映しやすい反面、財政的・事務的に非効率な面があることから、段階的な解消を行っています。また、消防力の地域差異が生じており、広域化後５年間で消防力の均衡化を目指しています。

指令センターでは、１１９番通報は統合型位置情報システムで行われており、通報者の位置情報や、救急車の移動状況が画面上にリアルタイムに表示され、担当者もそれを確認しながら正確な対応をされており、頼もしさを感じました。

広域化により多くの効果が発揮されていると同時に、課題も明確化しており、これらの改善に向けた協議を進めるとともに、近年、大規模災害の発生、救急需要の増大、専門的火災予防への対応などが求められていますが、消防広域化の成果により、これらの諸課題を克服されていくことを期待します。

とかち広域消防局

～編集後記～

平成30年は、漢字一字で「災」（さい、わざわい）が選ばれたほど、自然災害が多い年で、北海道でも震度7の胆振東部地震が発生し、道内全体が大規模停電（ブラックアウト）になりました。

今年は亥年ですが、猪の肉には万病さえも防ぐ力があり、亥年は「無病息災」の意味がある年とされ、今年も健康でありたいものです。

平成は31年（２０１９年）4月30日をもって幕を閉じ5月1日から新元号になりますが、気持ちも新たに村づくりに尽力します。未来に向かって「みんなで創ろう元気のある村・中札内」を合い言葉に！　（黒田）